

事業群評価調書(令和4年度実施)

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 生涯学習課	山崎 由美
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)		
事業群名	⑤ 表現力や創造力を高める子どもの読書活動の推進	令和3年度事業費(千円)	※下記「2. 令和3年度取組実績」の事業費(R3実績)の合計額	319

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)		(取組項目)							
読書活動は、子どもの心を豊かにし、生きるための力を身に付けさせるとともに、学力の基盤を成すものであるため、家庭・地域・学校における読書関係者が相互に連携し、県民総がかりで子どもの読書活動を推進し、読書環境を整備することで子どもが自発的に読書に親しむよう促します。		i) 司書教諭等研修会の実施や図書ボランティア等の地域における読書活動推進者への支援 ii) 「長崎県の子どもにすすめる本500選」の改訂 iii) 中学生ビブリオバトル [※] 大会の実施 ※ビブリオバトル: 出場者一人一人がお気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力などを紹介する書評合戦							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 第四次長崎県子ども読書活動推進計画(R元~R5)に基づき、子どもの発達段階に応じた読書習慣の形成を図る取組と読書関係者の資質向上を図る取組を進めている。 小学生の不読者率は0.2%、高校生の不読者率は11.4%と目標値を達成し、取組の成果が見られたが、中学生の不読者率は1.7%と目標値を達成できなかった。学校段階が上がるにつれて不読者率が上昇する主な理由としては、部活動や進路実現に向けた学習等に取り組む必要があるため、読書に使える時間の確保が難しくなっていることや、スマートフォン等の普及による若者の活字離れの影響が考えられる。 今後は最終目標達成に向け、学校司書・司書教諭等の研修や家族10分間読書活動の推進等に力を入れ、児童生徒の読書活動の活性化を図っていく。特に中学生の読書活動については、県ビブリオバトル大会の開催を通して、生徒の興味関心を高め、不読者率1%以下を目指す。
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※小学生	目標値①	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	小学生1%以下(R7)	
	実績値②	小学生0.2%(R元)	0.2%					進捗状況	
	達成率②/①		100%					順調	
	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※中学生	目標値①	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	1%以下	中学生1%以下(R7)	
	実績値②	中学生1.0%(R元)	1.7%					進捗状況	
	達成率②/①		0%					遅れ	
	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
児童生徒の不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合) ※高校生	目標値①	12%以下	12%以下	12%以下	12%以下	12%以下	高校生12%以下(R7)		
実績値②	高校生12.3%(R元)	11.4%					進捗状況		
達成率②/①		100%					順調		

2. 令和3年度取組実績(令和4年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和3年度事業の実施状況 (令和4年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和3年度事業の成果等	
				R2実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R2目標	R2実績	達成率		
				R3実績					R3目標	R3実績			
				R4計画					R4目標				
事業実施の根拠法令等			事業対象										
事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)										
所管課(室)名													
取組項目 i ii iii	○	1	ミライon(未来につなぐ) 子ども読書活動推進事業費	558	558	7,042	司書教諭等研修会、図書ボランティア研修会等を開催し、読書活動推進者の資質向上と連携強化を図った。 「長崎県の子どもにすすめる本500選・精選版」の周知に努め、小学1年生とその保護者には、入学時に「家庭読書啓発リーフレット」を配付した。 「県中学生ビブリオバトル大会」の中止に伴う代替措置として行った「中学生おすすめの本発表会」を、県の公式YouTubeチャンネルで期間限定で配信し、県内中学生の読書への興味・関心の喚起を図った。 高文連図書専門部・県立長崎図書館と連携し「高校生が選ぶ友だちにすすめる本」を選書・広報することで、高校生の読書への興味・関心の喚起を図った。	【活動指標】	4	2	50%	●事業の成果 ・読書関係者を対象とした研修会の開催や、発達段階に応じた子どもの読書習慣の形成を図る一連の取組により、小学生及び高校生の不読者率は目標を達成した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・小学生及び高校生の不読者率がそれぞれ目標を達成するなど、子どもが自主的に読書に親しむ機会と環境の整備が進んだ。	
					319	319		8,569	地域の図書ボランティアに対する研修会の実施市町数(市町)	5	3		60%
					1,216	1,216		8,449	5				
									【成果指標】	1.0以下	0.2		100%
									不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%) ※小学生	1.0以下	0.2		100%
									【成果指標】	1.0以下	0.5		100%
								不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%) ※中学生	1.0以下	1.7	0%		
				【成果指標】	12.0以下	12.6	0%						
				不読者率(1か月に本を1冊も読まなかった者の割合)(%) ※高校生	12.0以下	11.4	100%						
				12.0以下									
			R元-5										
			生涯学習課	○	—	—	児童・生徒、保護者、地域住民等						

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	<p>司書教諭等研修会の実施や図書ボランティア等の地域における読書活動推進者への支援</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 司書教諭研修会は、司書教諭新規発令者が学校図書館運営について基本的な取組や具体例を学ぶ機会となっており、図書ボランティア研修会は参加者の満足度が高い(R2:93.2%、R3:96.7%)。今後は、目的・対象に応じた研修内容の更なる充実と、実施方法の工夫・改善、ボランティア同士の連携が課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 各研修会において、参加者や地域のニーズに合わせた研修プログラムを実施する。また、読書活動推進者の連携を図り、活動に生かせるような情報交換の場を設定するなど、研修会の内容を工夫していく。</p>
ii	<p>「長崎県の子どもにすすめる本500選」の改訂</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 乳幼児向けのリストを加えた精選版を作成するとともに、県内の図書館での活用や県内すべての小学校において新入生への配布を行った。また、本課ホームページに子どもの年齢・学年に応じたリストを掲載し、ダウンロードできるようにしているが、読書関係者への情報提供の機会や掲載についてのさらなる周知が課題である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 読書関係者向けの研修会の会場で500選図書の展示や、本課ホームページを紹介するチラシの配布など、子ども読書活動の関係者を中心に、ホームページの活用について周知するとともに、関係課との連携を図り、情報提供の場を積極的に獲得していく。</p>

iii 中学生ビブリオバトル大会の実施	●実績の検証及び解決すべき課題 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見合わせ、代替措置として「中学生おススメの本発表会」を行った。昨年度の「長崎県中学生書評発表会」より動画閲覧数が減少したため、動画配信の周知についてはさらなる工夫が必要である。また、「県中学生ビブリオバトル大会」については、市町や学校での予選開催を促すことによる、すそ野拡大を図っていくことが課題である。	●課題解決に向けた方向性 動画配信による代替措置については、中学生や教員への周知を図るうえで効果的な広報媒体を検討するとともに、動画のプログラム構成等を工夫していく。 また、市町でのビブリオバトル予選開催を促すため、市町教育委員会の担当者等に子ども読書活動の意義や事業の説明を積極的に行っていく。
---------------------	--	--

4. 令和4年度見直し内容及び令和5年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和4年度事業の実施にあたり見直した内容	令和5年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 i ii iii	○	1	ミライon(未来につなぐ)子ども読書活動推進事業費 R元-5 生涯学習課	※令和4年度の新たな取組は「R4新規」等と、見直しが無い場合は「—」と記載 研修会等で「長崎県の子どもにすすめる本500選・精選版」の活用と、「家族10分間読書運動」を周知することにより、発達段階に応じた子どもの読書習慣の形成や、読書活動への興味・関心を高める。 「県中学生ビブリオバトル大会」については、オンラインの活用も視野に入れ、県大会の実現を目指す。	②	読書習慣の形成を図る一連の取組を継続するとともに、特に中学生の不読者率改善に向けた取組の充実を図る。 目的・対象に応じた研修プログラムの改善・充実を図るとともに、地域の実情や課題に対応する講師の選定等細やかな配慮に基づく読書活動支援を進めていく。 また、第五次長崎県子ども読書活動推進計画策定に向けた準備を進める。	改善

注:「2. 令和3年度取組実績」に記載している事業のうち、令和3年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点